



◆ 巻 頭 言 今年も安全に

瀬上さとやまのりの会の2016年の活動もスタートした。

今年も会員みんなが健康で事故無く安全に作業を進めたいものである。作業日初日の「仕事始め式」ではいつものように今年の作業の安全を祈願しました。1年間その御利益にあやかりましょう。

安全といえば昨年の世相を表す「漢字」も安全の「安」であった。安全保障関連法をめぐる議論の高まりや、テロや自然災害で安全・安心が脅かされたことが主な理由だという。世の中には不安なことが沢山あるので何事にも安全・安心でありたい、あってほしいという願望のあらわれではないかと思われます。

しかし、安全は誰かに与えられるものでなく自分自身の行為で獲得するものであり、我々ひとり一人の行動によって確保できるものと思います。

今年も無事故を目標に安全作業に心して1年間、楽しく安全に作業を進めたいものです。そして年末にはみんなでまた無事故でおいしいお酒を飲みたいものと思っています。

(佐谷 光雄 記)

◆ 平成28年2月活動予定

① 2月14日(日)9時半～14時半 ・集合場所 池の下広場

◇作業目的：多様性保全型落葉樹林を目指した植樹。

・作業内容：いっしんどう作業エリアA2-2, 3の地ごしらえ。

中尾根E6-2からコナラをA2-2, 3へ移植。

※お願い：移植樹(コナラ実生)を運搬するのにバケツを使います。

当日参加して頂ける方は、各自バケツを持参して下さい。

宜しくお願い致します。

☆閑話休題：国土緑化運動・育樹運動標語 最高賞より

『夢託す 小さな苗に 大きな未来』

・持ち物 常備具(カマ・手ノコ・ナタ)、お弁当、飲料水、バケツ、他必需品

【持参器具】作業旗、シート、救急箱、スコップ、唐鍬、カケヤ、麻紐、添木

② 2月21日(日)9時～12時

・集合場所 管理ヤード

◇瀬上さとやまのりの会各部会共同作業『瀬上沢の低木除伐作業』

・作業目的：瀬上沢への光環境を整備し溪流生物の生息環境の改善を図る。

・作業内容：日陰を作りだしている低木、ネザサ等の除伐、刈り取り。

・持ち物 常備具(カマ・手ノコ・ナタ)、おやつ、飲料水、他必需品

③ 2月28日(日) 9時～15時

・集合場所 池の下広場

※年度内最後の林野庁交付金対象作業です。協力をお願い致します。

◇作業目的：緑への誘い『谷戸の子供教室』。

・作業内容：谷戸の子供教室（いっしんどう広場で開講：9時半～11時半）

・ノコギリの使い方（玉切り、コースター作り）

・間伐体験と緑地保全の目的説明（班毎に）

◇12時半～14時まで、尾根道作業エリア E6-2 保全作業

◇14時以降、皮むき乾燥材の搬出

・持ち物 常備具（カマ・手ノコ・ナタ）、お弁当、飲料水、他必需品

【持参器具】作業旗、シート、救急箱、剪定バサミ（大）、刈払機

（28年3月号の原稿に関し、上記活動報告は星野純明氏、巻頭言は高嶋光夫氏、リレートークは行木秀雄氏です。原稿の締め切りは28年2月28日(日)、枝村氏迄宜しくお願いします。）
欠席される方は、メール(TOKAMI6666@aol.com)又は電話(894-2800)で山上部会長迄。

【瀬上さとやまもりの会 活動日誌】

(1) 平成27年12月12日(土) 曇り時々晴れ 瀬上池かいぼり 9:00～15:30
参加者：上手、高嶋、村田、前村、山上、伊藤 計6名 生き物部会から等総勢約90名
胴長靴を付け、池に入っての作業、外来種など仕分作業とに分担を決め続けた。



瀬上池の水を減らして



胸迄かりたも網ですくう



ウシガエル

(2) 平成27年12月13日(日) 雨が強くなり出来る事はしたが作業としては中止。参加6名

(3) 平成28年1月10日(日) 晴れ 瀬上いっしんどう広場 9:30～15:00

参加者：浅見、石渡、伊藤、枝村、小宅、小嶋泰、佐谷、上手、星野、前村、三島、村田
山上、渡邊富、渡部、桃沢(谷戸ボラ塾生) 計16名

例年通り新年安全祈願後、いっしんどう広場下を中尾根近くまでアズマネザサ、アオキ、シロダモなど何時もの除伐を続けた。一方景観を損ねる大木をチェーンソー利用しながら倒し、枝がかりしたのを午後も作業を続け何とか玉切りし14:30には作業終了。



新年恒例安全祈願



ラジオ体操から



急斜面での作業、枝がかりも何とか

(4)平成 28 年 1 月 24 日(日)晴 公田竹林 下準備 9:00~11:40

参加者： 浅見、石渡、伊藤、小宅、佐谷、上手、野沢、長谷川、星野、前村、三島、柳下、
渡邊富、渡部 計 14 名

寒風の中週末予定の『自然体験教室』用に材料など切だし等準備をした。 割り箸用と花さし又竹馬(ぽっくり)や花鉢用と人数を分けて取組、ヘルメットも含め区役所へ仮置きした。



寒波襲来の中風が舞う



久し振りの竹林の様子



枯れ竹をメインに材料に

(4) 平成 28 年 1 月 30 日(土)小雨のち曇り 降雪予報は外れたが、竹林での作業中止
参加者； 浅見、枝村、小嶋泰、佐谷、上手、竹内、三島、山上、渡邊富、伊藤、小宅、
長谷川、玉恵夫人 計 13 人

区役所； 瀧澤、桂田、石田、12 家族(27 名) 計 30 名

雨が残った為現地での作業は中止で直接区役所集合となった。恒例のマイ箸作りから始め竹ぽっくりや花入れ、竹の蟹など思い思いの作品を作る。0 時にトン汁を振る舞い。昼食後作業を再開 14 時まで。パンジーの花苗を持ち帰っていただいた。17 時半から、前村、吉川、渡部を迎え 14 名での新年会 於大船『つぼ八』



トン汁はどうか？



みんな真剣に、思い思いの作品を



賑やかに新年会、遊ぶ相談は直ぐに

田嶋 泰行

年明け早々、来年のことを言うと鬼が笑うと申しますが、来年どころか 34 年後の話です。

34 年後、私は 72 歳。まだ働かなくてはならない年齢です。

私は子供が 4 人います。みなさんもみなさんの周りにも、34 年後を迎える方がいらっしゃると思います。

34 年後の 2050 年世界がどうなっているか？というのが環境の話にはよく出てきます。

- ・人口が 90 億人に

- ・食料、水の需要が現在の 30%~85%増加

などです。

現在でも人口が増えて環境への負荷が、問題視されているのに、地球は 90 億人を支えることが出来るか大きな課題と言われています。

今はまだ存在しないテクノロジーを期待して「大丈夫でしょ！」と考える方もいますが、そんなに楽観視はできないと学者さんは言っています。

人口が増え、人間が生活するため、又、利便性を求める結果、開発や環境破壊が行われ、生物多様性が劣化する。それによって食料、水の生産力が失われていく将来。

34 年後私たちの生活はどのようになっているのでしょうか。そんなに遠くない未来。

は不安で不安で..

だから環境を保全するボランティアに参加することにしました。(全然参加できずに申し訳ありません)

横浜市の行ったセミナーで国際自然保護連合(IUCN)の日本事務局の講師の方が言っていました。「生物多様性とは身近な自然こそ大切」

私たちの身近な横浜の緑地は減少し続けています。

34 年後への不安はどうすればぬぐえるのでしょうか。

新年早々面白くはない話題ですが、将来に目を向ける新年でもよいのではと思いました。

◆ **編集後記** 1月7日久しぶりに上京された佐々木先生(元鶴見大教授)から誘われて同大環境教育講演会にお邪魔した、『世界自然遺産小笠原を守る』実際現地で固有種を守る活動をされている方の発表でした。小笠原諸島の自然は大陸とは一度も陸続きになった事が無い海洋島、だからこそ偶然たどり着いた動植物がガラパゴス諸島の様に独自の進化を遂げた稀有の島々である。そこへ父島



や母島に人が住みペットや家畜、燃料用樹木の移植等彼ら人間の都合で持ち込まれた物が野生化し、小笠原本来の固有種を脅かす存在になっていると言う。例として挙げられた『グリーンアノール』。別名アメリカカメレオン(体長 15~20cm)。昆虫類を捕食、小笠原にしかいないカタツムリが全滅しそうと言う。その被害は無人数島の兄島まで及び、世界自然遺産の登録継続も危ぶまれる状況。振り返って瀬上は借り上げ市民の森として長い間放置されてきた現状、人間が手を加えてこそその里山と思う。瀬上池のかいぼりが昔は『ゆい』の結束によって続けられてきたと思うと、人の繋がりのパワーを感じずには居られない。

(伊藤)